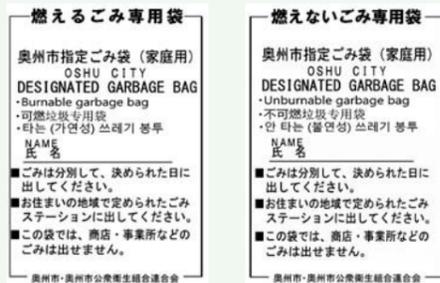


外国語表記と注意事項の追加など、4月1日から市指定ごみ袋のデザインを変更します。

- 変更点●
  - 外国人でも「燃えるごみ」「燃えないごみ」の袋の区別がつくように、英語、中国語、韓国語の表記を加えました
  - ごみの排出は、お住まいの地域で決められたごみステーションに出すことの注意書きを加えました
  - 旧自治区の表示を削除しました

●既存のごみ袋の取り扱い●  
皆さんが今お持ちのごみ袋は、これまでどおり4月以降も使用することができます。販売店においても、当面は旧デザインのごみ袋を併売しますので、どちらを購入しても使用できます。



## 指定ごみ袋のデザインが変わります

### ごみの減量と収集休止へのご協力ありがとうございました

胆地区衛生センターごみ焼却施設長寿命化工事に伴い、2月は燃えないごみの収集を休止したこと、燃えるごみの収集回数を減らしたこと、一関市へごみを搬入するため、通常より収集に時間を要したことなど、ご不便をお掛けしました。皆さんのご協力により工事は順調に進み、2021年3月に完成の予定です。ごみの減量と適正な排出にご協力いただきありがとうございました。今後も引き続きごみの減量と分別にご協力をお願いします。



■問い合わせ＝本庁生活環境課生活衛生係（内線1216）、各総合支所市民環境課

# We support the **ILC** 希望のひかり 第64回

ILC（国際リニアコライダー）計画の各種最新情報をお届けします

### 一歩前進！ ILC次なるステージへ！

3月7日に東京都内で開催された国際会議において、文部科学省の磯谷桂介研究振興局長は、次のとおり文部科学省見解を示しました。文部科学省がILC計画に関心を示したのは初めてのことであり、前向きな一歩を踏み出したものと捉えています。

### 文部科学省の見解【要旨】

▼日本学術会議の所見を踏まえ、現時点で日本誘致の表明には至らないが、国内の科学コミュニティの理解・指示を得られるかどうかも含め、正式な学術プロセス（日本学術会議が策定する

マスタープランなど）で議論することが必要である

▼国外においても、欧州素粒子物理戦略などにおける議論の進捗を注視する

▼ILC計画については、日本学術会議の所見で課題などが指摘されている一方、素粒子物理学におけるヒッグス粒子の精密測定の重要性に関する一定の学術的意義を有する。ILC計画がもたらす技術的研究の推進や立地地域への効果の可能性に鑑み、文部科学省はILC計画に関心を保持して国際的な意見交換を継続する

また、同日開催された国際研究者組織（ICFA※）の記者会見では、文部科学省の

見解について「正式な学術プロセスを経る必要があるが、日本に誘致してほしい」と述べるのと同時に、候補地についても「北上高地が唯一の候補地」とし、ILCの日本実現に期待を寄せました。  
※ICFA：国際将来加速器委員会。世界の主要加速器研究所の代表者らで構成される



◀ICFA記者会見のパスリックビューイングを見守る市ILC推進連絡協議会員ら（市役所市民ホール）

### 市議連 ILC看板設置(水沢中) ～ともに～

市議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟（渡辺忠会長）は、ILC誘致への機運醸成と普及啓発を図るため、市内中学校作成イラストによるPR看板の設置を進めています。本年度3カ所目の完成となった水沢中学校（佐藤健司校長）の看板には、本市の誇る三偉人や特産品などがあしらわれています。看板タイトルの「ともに」は、同校生徒会スローガンであるとともに、「ILCとともに歩む」という同校の意思が感じられます。看板の原画を描いた同校美術部の草野真央さん（3年）と小野笑さん（3年）は、「世界にたったひとつの国際研究所ができて、宇宙の謎が地元で解き明かされるのは楽しみ」と夢を膨らませました。また、佐藤郁夫副会長は「ILC誘致はいよいよ正念場。何としても誘致する」と力を込めました。



◀2月1日、水沢中美術部（3年生）と市ILC議連役員の方々の皆さん

本市では、長年にわたり講演会や出前授業などの普及啓発活動を行うとともに、東北ILC推進協議会や県をはじめとした関係団体と連携し、産学官民が一体となった要望活動などを幾重にもわたり実施してきました。このたび、文部科学省がILC計画に関心を示したことで、国際的な検討が進み、ILC実現に向け進展すること期待します。

## おうしゅう 羅針盤

ようやく春めいてまいりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

奥州市民☆文士劇「風雲！ たぬき城ー里山を守り抜け！ 天下分け目の化け比べー」、奥州前沢劇場「どこまでも続く空」、奥州胆沢劇場「路くただひたすらに」が開催されました。キャストやスタッフが一丸となって公演し、どの会場も涙と感動に包まれました。舞台を創り上げられた皆さまに心より感謝申し上げます。まちづくりの一助となっている市民劇場が、これからも続いてゆくことを願います。

1000年以上の伝統を誇る黒石寺蘇民祭。「ジャッソウ、ジョヤサ」の掛け声が厳冬の山中に響きわたり、男衆による肉弾戦・蘇民袋争奪戦が繰り広げられました。五穀豊穡、無病息災を祈願してま

いりました。

また、昔ながらの農作業の風習を今に伝える「全日本農はだてのつどい」が開催されました。クライマックスの「福俵引き」など、多彩な催しが繰り広げられ、胆沢の地に福を呼び込みました。これから始まる農作業の安全と豊作を切に願います。

本市産食材を活用したアイディア料理を競い合う「食の黄金文化・奥州料理コンクール」の表彰レセプションが開催され、最優秀賞には、盛岡誠桜高校斉藤麻衣さんの「いものこ汁なし奥州牛巻きご飯と前沢江刺満腹大福」が選ばれました。また、地元菓子店の商品がずらり並んだ「おやつフェスティバル」が開催され、お目当ての品を買い求める家族連れでにぎわいました。

食の黄金文化・奥州輝かせ隊の隊員として金ヶ崎町出身の高橋史江さんと本市出身の佐藤幸治さんを任命しました。二人には、6次産業化の推進のため持てる力を遺憾なく発揮してほしいと思います。

奥州市長 小沢昌記